

# 隠岐諸島における今後の観光振興のあり方に関する検討(調査・分析)報告書 骨子

## ■調査・分析の目的

観光客の減少、担い手や後継者の不足、宿泊施設の撤退や廃業など、厳しい状況にある隠岐諸島の観光産業の立て直しを図るためには、観光事業者による取り組みを計画的に支援することが必要との観点から、隠岐諸島における今後の観光振興のあり方について、島根県隠岐支庁、隠岐郡4町村及び観光協会ほか各支援機関による組織横断的な検討に必要な調査・分析を行い、基礎資料とする

## 第1章 隠岐諸島観光の実態

### ◆隠岐諸島の観光は衰退状況にあり、地域の産業や暮らし等にも大きく影響

- 来島者数は概ね横ばい状態であるが、直近2年間は観光客減少による影響が大きく、宿泊者数、滞在日数を含めて減少傾向にある
- 来島目的も相対的にビジネスが増加し、観光が減少してきている
- 来島の発地では、広島県が若干伸びているが、近畿圏からの来訪が減少している
- 外国人の来島者は、まだ実数は少ないが、年々増加傾向にある
- 観光消費金額は、観光利用や宿泊者数、滞在日数の減少もあり、減少傾向にある
- 宿泊業の減少が著しい

## 第2章 観光に関わる民間事業者等の実態

### ◆収支状況の低迷に加え、人材不足や施設・設備の老朽化により、事業承継が困難

- 経営状態としては、現状では収支均衡の事業所が多いが、将来的には厳しいと判断
- 後継者が明確でない事業所が多く、今後10年以内に廃業する見込みは20~30%
- 顧客ターゲット(観光とビジネス)の棲み分けが必要
- 外国人の受け入れについては、積極的に対応していく気運はまだ低い
- 消耗品や物販品、食材などの仕入における域外からの調達が多く、改善していくことで域内経済の活性化につながっていく可能性がある
- 経営上の課題としては、後継者や従業員などの人材・人手不足の他、施設・設備の老朽化、利用者低迷等による売り上げの減少などが挙げられている
- 今後の隠岐諸島観光の課題としては、魅力あるコンテンツ・体験・土産品や宿泊施設の整備などの他、島内の移動手段の円滑化が重要視されている

## 第3章 観光施策の実態

- ◆各町村間の連携・情報共有の不足(島前3島間、島前⇄島後間)
- ◆事業承継が課題⇒魅力ある(稼げる)観光産業の創出が必要
- ◆地域経済の観点から当面目指すべき目標を設定することが必要

### 【隠岐観光協会及び4島の主な取り組み】

隠岐観光協会	隠岐諸島全体での誘客強化事業、情報発信及びプロモーション事業の促進、マーケティング調査、「隠岐観光営業戦略会議」の開催 など
海士町	島宿プロジェクト(宿の機能分担など)、島活プロジェクト(ガイド派遣など)、離島キッチン(島の食材活用)、島のマルチワーカー等の推進 など
西ノ島町	観光地のトイレやWi-Fiの整備、宿泊施設の改修等のハード整備支援、A級グルメのまち連合、動画作成などによる情報発信の強化、インバウンド対策の推進 など
知夫村	自然活用型体験メニューの充実(グランピングなど)、動画を活用による情報発信の強化、担い手や人材確保に向けてNPO法人を設立 など
隠岐の島町	観光地のトイレの改修、宿泊施設の改修等のハード整備支援、ローソク島やジオサイト等を活用促進、ウルトラマラソンなどの観光誘客イベントの充実 など

## 第4章 課題の分析

4-1 町村別意見交換会	
隠岐の島町	西ノ島町
<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞在型観光の推進(個人消費額の向上) 体験・参加型、島内消費の向上、島民とのふれあい、島民も楽しめるタクシー観光の充実、冬期の観光振興、雨天対策</li> <li>・お客様ニーズの把握、マーケティング調査</li> <li>・食の充実、豪華弁当の提供、昼食難民対策 など</li> <li>・核となる人、プロデューサーの確保</li> <li>・SNSを利用した情報発信の充実、</li> <li>・島民の役割・意識改革・つなげることが大事</li> <li>・民間事業者と行政で情報共有、ミスマッチした振興策を改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験・滞在型メニューを増やす 周遊コースや一週間滞在ツアー、季節毎の伝統行事や体験メニュー 島民とのふれあいの観光コンテンツ化、天体観測、夜釣りなど</li> <li>・国賀海岸をどう生かすか、観光船の積極的な活用、雨天時の対策</li> <li>・郷土食の活用、対価に合ったサービスや商品の提供</li> <li>・島内移動の円滑化(カーシェアの導入)</li> <li>・宣伝方法の工夫(ドローンやSNSの活用)</li> <li>・町民が楽しむ⇒観光客が来る⇒共に楽しむ⇒町民の意識の変化</li> <li>・行政と島民のコミュニケーションが不足</li> </ul>
海士町	知夫村
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅のコンシェルジュ(資格)機能を強化 いろいろな体験ができる仕組みをつくる、個々で楽しめるもの 地域の人の交流</li> <li>・海士らしい「食」の開発、商品になるような人材の育成</li> <li>・レンタカー事業者の育成</li> <li>・宿泊施設の連携・一体化(港でチェックインなど)</li> <li>・宣伝・広告の充実、魅力のPR</li> <li>・コミュニケーションが不足、他地域の人が何をしているかわからない 交流が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知夫のオリジナリティの創造と伝達 ガイドの育成、観光コースと一体となった土産品の開発、 季節毎に自然を活かした体験型観光を実施</li> <li>・宿の充実(ターゲットを明確にした宿泊施設のランク分け) (グランピング・エアストリーム、ホテル、民泊・ゲストハウス等)</li> <li>・島外・島内に観光コンシェルジュを設置、広告宣伝の充実</li> <li>・ワーホリやインターン制度などによる人材確保(宿・農業等の協働雇用)</li> <li>・地域資源のフル活用、島の食材の活用</li> <li>・宿泊事業者で送迎車のシェア(車と運転手)</li> </ul>
町村別意見交換会を通して見えてきた、今後の隠岐諸島の観光振興に向けて観点(方向性)	
①滞在日数(泊数)を増やす。 ②リピーター(ファン)を増やす。 ③島内消費額を増やす。 ④島内調達を増やす。	
4-2 全体意見交換会	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●島内消費額の向上 インバウンドを含む富裕層の取込、滞在日数の延長、 ブランディング、コンテンツの充実、顧客満足度の向上(リピーター)</li> <li>●地域住民との連携・交流の促進(巻き込み)</li> <li>●マーケティング情報の取得やファンの獲得、顧客管理の充実 ポイントカード(島カード)の導入</li> <li>●情報発信・伝達の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●島内経済循環の形成 島内調達の拡大、地産地消の促進 など</li> <li>●連携して効率的な観光事業の促進 島間連携で無駄を省き、質を向上</li> <li>●宿泊税(入島税)の導入 観光産業立て直しのための財源の確保</li> <li>●情報共有、コミュニケーションの充実</li> </ul>

## 第5章 隠岐諸島における今後の観光振興のあり方に関する検討の方向性(4本柱)

### I. 適正な数値目標の設定

現状の宿泊キャパシティ等を勘案し、隠岐諸島全体で観光産業を支えていくための基礎的な目標値を設定

### II. 島内消費の拡大に向けて

富裕層の取り込み、リピーター(ファン)の獲得  
滞在日数の延長、コンテンツの充実  
継続的な観光客のニーズ把握、顧客管理システムの導入

### III. 島内経済循環の構築に向けて

観光産業以外の業種(農林水産業など)との連携促進による地産地消の拡大、島内調達の促進

### IV. 稼ぐ観光産業への発展に向けて

島間連携での無駄の解消、人材や資源の共有による効率化  
効果的な情報伝達・発信  
情報共有、コミュニケーションを図る意見交換の場の充実  
行政と観光協会との連携体制や役割分担、意思決定プロセスの再整理  
隠岐観光協会及び町村観光協会の組織体制(統合や再改編を含む)  
安定した経営基盤確立を支援するための商工会や行政等との連携強化

